

東京都 M I C E 誘致戦略（概要）

～揺るぎないプレゼンスの確立を目指して～

戦略策定の意義

- 海外競合都市との誘致競争に勝ち抜くためには、東京の持つ様々な強みを生かすと同時に国内他都市とも連携しながら、戦略的に誘致活動を展開することが必要
- こうした視点に立ち、今後、都が積極的に誘致を進めるべき重点分野を明確化し、M I C E 誘致に向けた取組の方向性を示す「東京都 M I C E 誘致戦略」を策定
- 今後、本戦略に基づく M I C E 誘致施策を着実に実施していくことで、M I C E 分野における東京の揺るぎないプレゼンスの確立を目指す

M I C E を取り巻く現状と課題

現状

- M I C E の開催は、産業力を強化し、高い経済波及効果をもたらすなど、都市の競争力強化に資することから、国際的な誘致競争が激化
- 国際会議はこれまで欧米諸国での開催が多数を占めていたが、経済発展が進むアジアのシェアがこの10年で2倍以上に拡大
- 東京の国際会議開催件数は増加傾向にあるものの、依然として海外競合都市のシンガポールやソウル等に後れを取っている

課題

東京は M I C E 誘致において、海外競合都市と比較して以下の課題を有する。

グローバル対応の遅れ

- 特定分野をターゲットとしたプロモーションの展開
- M I C E 関連事業者のビジネススキルの更なる向上 など

東京が有するポテンシャルの活用が不十分

- 東京の高い技術力や魅力的な資源等を生かして誘致や開催に結びつける取組の推進 など

誘致・開催を効果的に行う連携体制の不足

- M I C E 関連事業者や M I C E 誘致を担う様々な関係主体と連携した取組の更なる推進
- M I C E 受入環境の整備に向けた取組の推進
- 複数都市を巡る M I C E の誘致に向けた協力体制構築 など

戦
略

目標

< M I C E 開催都市東京のプレゼンスを確立 >

概ね10年後（2024年頃） 世界トップ3に入る年間 330件の国際会議の開催

重点分野の設定

効果的な誘致活動を展開するため、ターゲットとなる重点分野を設定

国際会議(C)	○ 学術分野：医歯薬・理工学系 ○ 産業分野：情報通信、金融、健康・医療、環境・エネルギー、危機管理、ロボット など
企業系会議(M)	○ 東京でのビジネス拡大やネットワーク構築を目指す海外企業
報奨・研修旅行(I)	○ コストよりも東京の都市としての多様な魅力を重視する海外企業

※展示会・イベント等(E)については今後検討

主な施策展開

グローバル対応の強化

- ▶ 重点分野をターゲットとしたプロモーションの展開、M I C E 関連事業者と連携したセールス手法の検討
- ▶ 誘致・開催に係る専門的なスキルやノウハウを持った M I C E 専門人材の育成
- ▶ ベストシティーズ（都市間連携組織）を通じた情報の収集・活用
- ▶ 海外の会議運営事業者に対するファミトリップ（招待旅行）の実施
- ▶ 東京開催が決まっている国際会議のひとつ前の開催地で東京の魅力を P R

東京の強みや資源の有効活用

- ▶ M I C E 開催時における東京の高い技術力・魅力的な資源等を生かした支援メニューの開発・提供
- ▶ 歴史的建造物や文化施設等におけるユニークベニューの利用促進
- ▶ 多摩・島しょの観光資源を生かした観光ツアー・体験メニュー等の開発・提供

多様な関係主体との連携促進

- ▶ 医歯薬・理工学系の都内大学と連携した学術系国際会議誘致の支援
- ▶ M I C E 関連施設が集積する地域において関連事業者等と連携した受入環境の整備を促進

国内他都市との協力体制の構築

- ▶ 国内周遊型の報奨旅行の誘致に向けた国内他都市との協力体制の構築
- ▶ 国際会議や企業系会議の開催時に主催者に対して国内他都市を訪れるプログラムを提案